

西岬地区説明会 協議録

日 時	令和4年6月30日（木） 19:00～21:00
場 所	西岬小学校 体育館
出席者	出山教育長・岡田教育部長・今井教育総務課長・庄司教育推進室長・ 藤本同副課長・小柴副主査（司会）
参加者	21人（保護者80% 地域住民20%）
記 者	あり（房日新聞）

【 概 要 】

- 教育長説明 5分
- 教育部長 3分
- 課長説明 45分
- 前日までの質疑応答の紹介 10分
- 質疑応答 30分（6名）

（学校再編全体の方向性に対する意見）

- 小中学校は義務教育であり、複式学級では教科指導など、他校との教育環境の公平性に疑義を感じる。
- 更なる少人数化でデメリットが大きくなるのであれば、保護者としても、現場の創意工夫が保たれている間に、早急に統廃合の検討を行ってほしい。

（地区での組織立て方法に関する意見）

- 特になし

【 個別議事録 】

（参加者A）

- ・ 将来の各学校の人数は、学区外就学の子供を含めていますか？令和4年度の人数は？
- ・ 学区外就学の状況を記載してあるが10名以上の場合のみであり、小規模校などでは10名以上にはそうそうならないはずであり、割合（%）などで表記すべきでは？

（藤本副課長）

- ・ 令和4年度の人数は、この資料を作成した時点では未確定であったため、それら学区外就学等の実績値を含めていません。
- ・ ご意見ありがとうございます。今後、地区での協議を行う上で、例えば西岬小学校ではどこの地区から何人、逆に地域外へ何人といった数値を出していくことも可能ですので、それら具体的な協議の中で、話していきたいと考えています。

（参加者B）

- ・ 現場の先生方が、市教育委員会へ複式学級のデメリットなどを意見する場面は、あるのか？

（教育長）

- ・ 実際の先生方からの声のなかで、デメリットという質問なのでデメリット部分のみを紹介します。

□ 小学校で学年単クラスであると、相談できる同学年職員がない。

□ 中学校では同じ教科の先生がいないため、研修が深まらない。

□ 指導対象学年が増える、例えば、1人で2年生と3年生を教えることとなるため、授業準備の負担が大きい。

□ 教員数が少ないため、1人で多くの分掌をかけ持つ。例えば、安全主任や出欠の係など受け持つ分担任の数が増えてしまう。

このような声が上がっているところです。

(参加者B)

- ・ 小中は義務教育であるため、公平な教育が出来ていないのでは？と、保護者として不安も感じるが、複式学級において提供できていない教育課題はあるのか？

(教育長)

- ・ 義務教育であるため、提供できていないものがあるわけではなく、1人の教員がなんとかこなしている状況。やっていないということでは無く、相談できる同僚も少ないなかで苦勞しながら行っていることをご理解いただければと思います。

(参加者B)

- ・ 現在の西岬小学校は環境が良いと聞いているが、今後、更なる少人数化でデメリットが大きくなるのであれば、現保護者としても、現場の創意工夫が間に合わなくなる前に、早急に統廃合の検討を行ってもらいたいと考えている。

(藤本副課長)

- ・ このような現状は、西岬小だけでなく、市内他校でも起きている課題であるため、市としても速やかな解消を図りたいと考えているところです。

(参加者C)

- ・ 教育の質の観点から、西岬小の夏休みの宿題の量が多いと聞いているが、これらも先生方が少ないため、授業が回っていない（規定のカリキュラムが終わらない）から宿題が多いのか？

(庄司室長)

- ・ 教員の数が少ないから、課題（宿題）が多いわけではありません。

課題を出すときには、目の前の子供達の学力を見て、長期休業中にどんな力を付けさせたいのか、1学期の学習内容を見て考え、子供達への願いや思いを込めて、出しているものです。

学校によっては、長期休業中なるべく家庭に返しましょうという考えにより、最低限の宿題としている学校もありますが、その場合は通常の課題量を多くするなど、バランスを考えて教員は宿題を出しているものです。

(参加者D)

- ・ 西岬小は非常に小規模校であり、館山中学校での大規模集団とのギャップ、特に人間関係について強い不安がある。学校再編まで時間がかかるのであれば、それまでの期間（3年～4年）において、一定の集団規模で学校生活を送れるような工夫を行って欲しい。

(庄司室長)

- ・ 現在、3校（西岬・豊房・神余）での交流事業を行い、夏は西岬の海、秋は豊房の里山

なども行っています。また、神余小が館山小学校へ行き、一緒に授業を行っているなどの取組もあり、今後についてもそれら中学校入学時のギャップ解消の工夫について、考えていかなければならないと思っています。

(今井課長)

- ・ 学校再編時における統合学校の交流学习の事例を1点紹介しますと、過去にあった富崎小と神戸小学校の統合時の話ですが、当時、それぞれの学校で交流事業を行いました。富崎の子供達が神戸小から帰ってくると、今日は皆でサッカーをやった、次に遊ぶ約束をした、家に遊びに行った、そういったことを富崎地区の方々に話をしたそうです。このように、学校統合を考える際には、交流事業の必要性について十分理解していますので、今後の協議の中でもこのような視点をもって進めていきたいと考えています。

(参加者 E)

- ・ 学校再編をしないケースは、どういう場合なのか？

(藤本副課長)

- ・ 市としては、複式学級となる学校規模や環境は、子供達にとって好ましくないと考え、今回の基本指針としているところです。仮に、これからの地域での協議の中で、保護者や地域の方々が、複式学級の規模でも良いとの意見であるならば、地域として子供たちをどのように見守り育てていくのか、その考えを纏めて頂き、残すのであれば、子供達にどのような教育環境を提供するのかを踏まえて決定すべき事項と考えています。但し、全ての地域が今の状況で学校を残すとの意見が出た場合は、市としても10校中6校が複式学級となるが、本当にそれが子供達にとって良いのか、また、施設の維持管理や更新費用も多額となり、これから高齢化率も上昇し、介護・医療などの市民負担が増えていく中で、市民の方々の理解が得られるのか、持続可能な行政運営をするためにはどうすべきか、そのような観点で、再度検討しなければならないと考えています。

(参加者 E)

- ・ 兄弟がいて、上の子の学年は一定の人数がいますが、下の子の学年が凄く少ない場合、下の子供だけ、別の学校に通わせることが出来るのか？

(藤本副課長)

- ・ 指定校変更の制度があり、小規模校より標準規模校での教育環境を希望するとの理由であり、通学上の保護者などの送迎、子供の安全対策が図られるのであれば、認めることが出来ます。

(参加者 F)

- ・ かつて西岬には西岬中学校、西岬東・西小学校と、学校が3つあった、全国的な少子化の流れのなかでしょうがないとも思うが、地域から学校が無くなることは寂しいことと感じます。流山市では、保育士の給料を市が独自に上乘せして待機児童ゼロなどの取組を実施することや、北欧の方では学級規模を20名としている。
- ・ 少人数のメリットでリーダーシップが養われ、館山中学校の部活動でも西岬小の子供が部長を務めるケースも多いと聞いている。
- ・ これからどうなるかは分かりませんが、あくまで要望ですが、子供達にとって良い環境となるように進めて行って欲しい。

(藤本副課長)

- ・ ご意見ありがとうございました。

- ・ 地域のコミュニティ機能について、学校再編調査検討委員会においても議論があり、学校跡地の活用などを含め、今後、地域の方々と検討を行っていきべきと考えています。

(参加者B)

- ・ 過去に西岬地区でも学校再編についての議論(※前回の基本指針)があったと思いますが、その時、西岬小学校を残すとなった経緯を教えてください。

(今井課長)

- ・ 平成22年の指針の際にも、このように各地区を回らせて頂き説明を行いました。但し、前回の基本指針ではステップが2段階あり、第一ステップとして複式学級の解消を目指していました。その当時、西岬小学校は複式学級の状態ではなかったため、これ以上、子供が減少する場合は、地区において個別の協議を行う必要があるとの説明にとどまっており、統合の是非を問うような協議は行っていません。